

炭焼きと焼き芋大会

炭焼き窯による炭焼きを体験します。
焼き芋も作って食べよう。

開催日時 2月24日(日)
午前10時から12時
定員 20名
開催場所 オオムラサキ自然公園
講師 安藤 義樹(森林インストラクター)
服装 作業のできる服装、軍手、防寒着

イベント情報

ボランティアの日

オオムラサキセンターのお手伝いをして下さい。
開催日時 2月9日(土)
午前10時から12時まで
開催場所 オオムラサキ自然公園
内容 随時内容が変わります
(草刈り、笹刈り、川のゴミ拾い等)
服装 作業のできる服装、軍手

はやがわり虫の作品展

廃品や身近なもので作った面白くてかわいい虫たちを約100点展示します。
近藤先生が命を吹き込んだ虫たちに出会ってください。

開催期間 1月27日(日)から 4月7日(日)まで
開催場所 オオムラサキセンター
協力 近藤 芳弘氏(造形作家) 「アレコレ 虫にはやがわり」道出版著



お問い合わせ・お申込は

〒408-0022
山梨県北巨摩郡長坂町塚川 2812 番地
長坂町オオムラサキセンター
TEL&Fax 0551-32-6648
URL <http://www.yatsu.gr.jp/ngs/oomurasaki/index.html>



使い終わったライターがバッタに変身。これこそ仮面ライター？

オオムラサキ通信

No.45

発行：平成14年1月27日
編集：長坂町オオムラサキセンター
〒408-0022 山梨県北巨摩郡長坂町塚川 2812 番地
TEL&Fax 0551-32-6648

オオムラサキ最新情報

オオムラサキの幼虫は今、落ち葉の下で眠っています。(「越冬」と言います。秋、自分の力で木から降り 冬、木の根元の適度に湿った落ち葉に台座を作り、はりついてじっとして春になるのを待ちます。)

日差しが春のような暖かい日が続いていましたが、1月27日に大雪が降り銀世界になりました。(積雪40センチくらい)でも、次の日からはまた暖かく、ぐんぐん雪は融けています。オオムラサキの幼虫はどうしているか心配ですが、乾燥に弱いオオムラサキの幼虫にとっては良いお湿りになったかな？しかし、雪があまり融けないでいるとカビが発生してしまい、オオムラサキに影響が出てしまうのですが……。自然の流れは人間の考えには及ばないものですね。どうなるでしょうか。その結果(冬を無事越えることができたかどうか)は3月24日(日)の「越冬幼虫観察会」において分かります。ぜひ来て下さい。



オオムラサキの越冬幼虫(4齢)

オオムラサキの幼虫

1006頭 発見！！

「びばりうむ 長坂」内 調査実施報告

12月2日から24日までに「びばりうむ 長坂」内のオオムラサキの幼虫数を調べました。「びばりうむ 長坂」内、全部のエノキ16本を調べ、合計で1006匹のオオムラサキの幼虫を確認しました。冬を乗り越えて、春にはなるべく多くの幼虫が「母なるエノキの木」に登ってきてほしいと思います。調査した結果は下記のとおりです。

調査木 NO, 1	越冬幼虫数			備考
	南半分	北半分	計	
2	20	26	46	12月18日調査
3	3	9	12	"
4	0	1	1	"
5	16	29	45	"
6	1	4	5	"
7	42	83	125	12月19日調査
8	41	29	70	12月21日調査
9	6	12	18	"
10	78	61	139	12月23日調査
11	77		77	12月 2日調査
12	21	35	56	12月23日調査
13	11	10	21	12月24日調査
14	19	34	53	"
15	35	47	82	"
16	52		52	12月 2日調査
%	43.5	56.5		NO, 1・11・16を除く
合計	1006			

エキナー vol 11

暦の大寒が過ぎました。皆さんお元気ですか。

「春は近い」と心が弾みませんか、雑木林は冬・土の中では春の支度が始まることでしょう。今年も新鮮で元気な「サン・セン・ソウ・モクにムシたち」に逢えるのを楽しみにしています。人は考えるナントカといひます。

人も自然の中の サイクル、背伸びが過ぎると自滅・毎日の生活・始めと終わり・作る片付ける・有る無し・・・こんなことをじっくり考える「心のユトリ」がほしい・・・月日の単位の生活と秒の単位になった生活、どちらが環境や地球にやさしいのかな？南アルプスの吹雪の雲を眺めながら日だまりでフト思いました。会員の皆様この欄へのご投稿を是非お願いいたします。



お便り、お待ちしております。

自然とオオムラサキに親しむ会 朝日 竹夫

オオムラサキセンターまでお送りください。お待ちしております。

オオムラサキ自然公園の様子

なんだか日差しがぼかぼか、足元にもフキノトウやオオイヌノフグリ、ホトケノザ、スマレ・・・が顔を出して、春が来たのかな？！と思うほどでした。けれども、突然の大雪で40センチくらい積もり、真っ白の世界になってしまいました。雪の下にいる春に早く会いたいものです。

それではオオムラサキ自然公園を紹介しましょう。

<春の予感>

朝の寒さでしみてしまいましたが、コブシが一度咲いたあとがありました。

ヨモギの若い芽がによこつとあちらこちらに顔を出していました。まだ少ないので採取するのは大変ですが、今草もちにしたらやわらかくておいしそうです。^o^

冬芽を見ても、はじけそうなくらいふくらんでいるものがあります。春を秒読みでもしているのかな。

<鳥たちの様子>

葉をつけたままのヒノキやスギの木は、鳥たちの大切な隠れ家になっています。

公園内のヒノキやスギの木の下に行くと小鳥たちのフンや食べた後の実の皮などが落ちています。

「お食事中くらい落ち着いて食べさせて！！」

と小鳥さん、言っているかな？



紫の実を食べたのかな？

誰のフンでしょうか？

冬の大輪の花「ロゼット」

冬、野やあぜ道でタンポポやヒメジョオンのように葉を四方に広げて地面にぴったりとくっついた姿をよく見かけます。しかも茎がほとんどないので、葉がまるで根から出ているようです。けれども本当はごく節のつまった短い茎からたくさんの葉が水平に出ているのです。

これを「ロゼット」と言います。

春や夏などの季節とは葉の見た目などが違うのでこれはなんだろう？と考えてしまいます。また、見方を変えると地面に咲く大輪の花のようです。

君の足元にも咲いている「ロゼット」を探しにいこう。



アレチマツヨイグサのロゼット

赤くてきれいだね。

北風をさけるなら、背を低くする方がいいし、日差しを浴びるためなら、大きく手足を開くにかぎるよね。ロゼットはそんな理にかなったもうしづんのない理想の形なんだね。

<参考文献>

- 「野の植物」牧野晩成 著 小学館
- 「里山図鑑」おくやまひさし 著 ポプラ社

里山で音楽を聴く

自然環境フォーラム 開催！

里山の魅力を映像や写真で表現する今森光彦氏と心の原風景を音楽で表現する亀工房の共演です。今森氏のスライド&トークと亀工房のハンマー・ダルシマーとギターによるライブ、また、今森氏のスライドと亀工房の音楽の共演や対談も予定されています。

日本人の原風景である「里」の魅力を再発見しましょう。参加は無料です。

また、当日は地元特産品の試食コーナー等も開催します。

皆様のご参加をお待ちしています。

開催日時 3月30日(土)

午前10時から

開催場所 長坂町オオムラサキセンター

森林科学館

定員 100名

2002年が始まる！

2002年3月には、森林科学館が完成します。木のおもちゃを作ったり、木のこと、里山のことを学べる施設です。森林科学館竣工記念事業として様々なイベントを行ないます。ふるってご参加ください。

また、様々なご意見、ご感想をお待ちしています。よろしくお願ひいたします。



虫

廃品でいろいろな虫が作れちゃうよ。これは何を使って作ってあるのでしょうか？

* 答えはオオムラサキセンターに来ると分かるよ！！